

HEART to HEART



令和5年12月25日(月)発行

清北小の2学期は会話科や外国語活動・外国語科に関する行事が盛りだくさんです。今回は、10月から12月中旬にかけて行われた行事について紹介します。

少人数のよさを生かした外国語活動 (5年生 外国語活動研究授業)

10月17日(火)に、宇都宮大学より指導者を招き、5年生の外国語活動の研究授業を行いました。

相手にできるかどうかを尋ねる活動を通して、「Can you ~?」や「Yes, I can./ No, I can't.」の言い方を学ぶ授業です。この時間では、いろいろなスポーツなどの動作の言い方を復習したあと、他の先生方にインタビューをして意外なできることを聞く活動をしました。先生方に、「Can you do skydiving?」とインタビューをして「Yes, I can.」という回答が返ってくると思わず「ええ! ?」という声ももれていました。インタビューを通して、この先生なら「Yes」と答えそうなど予想をしながら楽しく会話をする姿が見られました。



みんなで作り上げた「夢育劇場」

12月2日(土)に、全校児童による劇、ミュージカルを発表する「夢育劇場」を行うことができました。1, 3, 5年生の創作ミュージカルの部と2, 4, 6年生による創作劇の部に分けて行いました。

1, 3, 5年生のミュージカルは、今年最後のミュージカルを披露する5年生は、新曲の歌詞やダンスなど、覚えることがたくさんありましたが、練習を積み重ね、徐々に自信を高めていきました。稲見けい子先生、朋子先生にご指導いただき、5年生はせりふがないときの演技の工夫、3年生と1年生は、掛け合いの場面でより感情が表れるような動きについて練習するなど、よりよいミュージカルをみんなで目指すことができました。



2, 4, 6年生の劇は、6年生のみんなで考えを出し合って、板戸探検をしているうちに現代から江戸にタイムスリップする場面を新たに取り入れました。今年は「コスプレ」をコンセプトとして、劇中のところどころにコスプレの話題を盛り込み、今年ならではの楽しいお話に仕上げることができました。山縣先生、戸田先生から、せりふの言い方や、立ち位置、表情などの演技について教えていただきました。練習を重ねるうちに自信をもって演じることができるようになり、みんなで協力して最高の劇を作り上げることができました。

劇、ミュージカルとも児童の頑張りを認め、励ましていただいた保護者のみなさまのおかげで大成功を収めることができました。アンケートへのご協力や鑑賞者優先席の入れ替え制に、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。

2年生 きよきたふれあい楽習(坊主めくり, 百人一首)



12月14日(木)に、保護者の方とふれあいながら学ぶ「板戸ふれあい学習」の一環として、ふれあい楽習を行いました。

2年生のことはの時間では、宇都宮市にゆかりのある百人一首について知り、少人数のグループに分かれて、「坊主めくり」を楽しみました。「坊主めくり」は、読み札の絵を使った簡単なルールで、最後まで勝敗が分からないため、子どもから大人までドキドキしながら一緒に遊びました。

児童の振り返りでは、「大人の人と坊主めくりで遊ぶことができ楽しかった。」や、「百人一首を覚えたい。」などの感想があり、楽しいひと時となり、次の学習への意欲が高められたことが伝わってきました。ご参加いただいた皆様には、講座へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

4年 きよきたふれあい楽習

12月14日(木)に、きよきたふれあい楽習で百人一首に親しみました。

最初に、百人一首がなぜ宇都宮とゆかりが深いのかを知りました。宇都宮城主が、京都の歌人と仲良くなったことをきっかけに百人一首が生まれたことを知り、子供たちは驚いた様子でした。まず初めに坊主めくりを行いました。坊主めくりでは、「坊主がでませんように」や「姫が出ますように」と願いを込め、ドキドキしながら札をめくる姿が見られました。運が勝敗を左右する遊びですので、興奮しながら楽しむ姿が見られました。次に散らし鳥取りを行いました。散らし取りでは、語呂合わせや決まり字について改めて確認してから遊びました。振り返りには、「二文字目まで聞かないと取れない札があるからよく聞きたい」「早く覚えてたくさんの札を取れるようにしたい」など、意欲的な発言が多く見られました。

